

検査情報月報



2018
2018
2月

横浜市衛生研究所

平成30年2月号 目次

【トピックス】

年末一斉食品収去検査	1
魚介類中の食品汚染物検査	3

【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 1月	4
-------------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	8
---------------------	---

年末一斉食品収去検査

年末食品等一斉点検事業は厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官から出された「平成29年度食品、添加物等の年末一斉取締りの実施について」の通知に基づき、食品流通量が増加する年末及び食中毒患者が最も発生する冬季における食中毒の防止を図るとともに、積極的に食品衛生の向上を図る見地から全国一斉に実施されました。

年末一斉点検の期間中に食品専門監視班及び福祉保健センターの収去した検体について、当所が行った食品添加物検査及び細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された173検体(輸入品119検体、国産品54検体)の食品について、菓子類、野菜類・果実及びその加工品などを重点的に、保存料、着色料、酸化防止剤など2,484項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、いずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査結果

平成29年11～12月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目							
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	品質保持剤	ヒスタミン
魚介類	1	0	1	-	-	-	1	-	-	-	-
魚介類加工品	16	0	205	45	144	9	-	1	4	-	2
肉卵類及びその加工品	12	0	184	36	132	4	-	-	12	-	-
穀類及びその加工品	2	0	19	6	12	-	1	-	-	-	-
野菜類・果実及びその加工品	22	0	322	52	216	44	1	9	-	-	-
冷凍食品	18	0	232	54	144	10	21	2	1	-	-
菓子類	53	0	762	97	468	62	134	-	-	1	-
清涼飲料水	10	0	231	90	120	21	-	-	-	-	-
酒精飲料	16	0	250	51	180	4	15	-	-	-	-
かん詰・びん詰食品	14	0	186	39	108	16	19	2	2	-	-
その他の食品	9	0	92	30	36	12	14	-	-	-	-
合計	173	0	2,484	500	1,560	182	206	14	19	1	2

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、冷凍食品・洋生菓子・そうざいなど89検体210項目でした(表2)。

検査の結果、規格基準*1違反が1検体、衛生規範*2不適が3検体ありました。

検査結果については、収去を実施した食品専門監視班及び福祉保健センターに報告しました。

*1 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

*2 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

平成29年11～12月

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
冷凍食品				
無加熱摂取冷凍食品	3	6		
凍結直前に加熱された加熱後摂取冷凍食品	1	2		
凍結直前未加熱の加熱後摂取冷凍食品	14	28		
魚介類加工品				
むしだこ	2	2		
ゆでがに	1	3		
ゆでだこ	1	1		
魚肉ねり製品	3	3		
肉卵類及びその加工品				
加熱後包装食肉製品(ハム・ベーコン等)	5	15		
包装後加熱食肉製品(ソーセージ)	1	2		
アイスクリーム類・氷菓				
氷菓	2	4	1	大腸菌群陽性及び細菌数超過
穀類及びその加工品				
ゆでめん	1	3		
生めん	2	6		
菓子類				
洋生菓子	21	63	2	大腸菌群陽性及び細菌数超過
清涼飲料水				
ミネラルウォーター	1	1		
未殺菌ミネラルウォーター	2	6		
清涼飲料水	9	9		
その他の食品				
加熱そうざい(そうざい類)	18	54	1	細菌数超過
非加熱そうざい(サラダ)	2	2		
合計	89	210	4	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

魚介類中の食品汚染物検査

1 PCB検査

平成29年6月と11月に中央卸売市場で収去した市内に流通する魚介類9種10検体について、PCBの検査を行いました。その結果、表1に示すとおり全て不検出でした。

表1 PCBの検査結果

単位:ppm

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値	
遠洋沖合魚介類	ヒラメ	1	0	不検出	0.5
	マイワシ	1	0	不検出	
	マサバ	1	0	不検出	
内海内湾魚介類	アオメエソ	1	0	不検出	3
	クロウシノシタ	1	0	不検出	
	トラギス	1	0	不検出	
	マアジ	1	0	不検出	
	マコガレイ	2	0	不検出	
	マゴチ	1	0	不検出	
計	10	0			

(検出限界:0.01ppm)

2 メチル水銀検査

平成29年7月に中央卸売市場本場食品衛生検査所で行った魚類の総水銀検査で、ハチビキ1件から暫定的規制値(0.4ppm)を超えた総水銀が検出されました。衛生研究所においてメチル水銀の検査を行った結果、表2に示すとおりハチビキからメチル水銀が水銀として0.43ppm検出されました。

表2 メチル水銀の検査結果

単位:ppm

食品の種類	検体数	検出件数	結果	暫定的規制値
ハチビキ	1	1	0.43	0.3

(検出限界:0.08ppm)

【魚介類の水銀の検査について】

魚介類の水銀の暫定的規制値は「総水銀」と「メチル水銀」の2つの項目から定められています。検査は、はじめに総水銀の検査を行います。その結果が0.4ppmを超える場合は、さらにメチル水銀の検査を行い、その結果が水銀として0.3ppmを超えた場合に暫定的規制値を超過した魚介類と判定します。

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 1月

《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報が発令されています。
- A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数が増加しています。

◇ 全数把握の対象

〈1月期に報告された全数把握疾患〉

腸管出血性大腸菌感染症	6件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	1件
A型肝炎	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	17件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	水痘(入院例に限る)	2件
急性脳炎	2件	梅毒	13件
クロイツフェルト・ヤコブ病	2件	百日咳*	1件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	7件	麻しん	1件

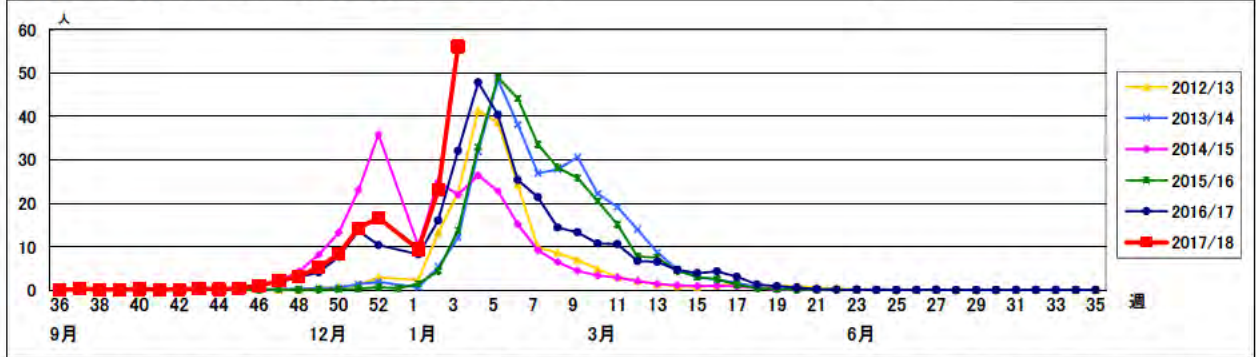
※平成30年1月1日から、百日咳が定点把握から全数把握の対象に変更されました。

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が1件、O26の報告が2件、O111の報告が1件、O不明の報告が2件ありました。うち、3件は無症状病原体保有者でした。
- A型肝炎: 経口感染(地域等不明)と推定される報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が1件ありました。感染経路等不明です。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 5件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 10歳未満の報告が2件(幼児1件、学童1件)ありました。病原体は、1件はHHV6またはHHV7疑いで、1件は不明です。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: 古典型CJDの報告が2件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 7件の報告(A群5件、G群2件)があり、うち3件は創傷感染、4件は感染経路等不明でした。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): 無症状病原体保有者(男性、同性間性的接触)の報告が1件ありました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が1件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、40~50歳代の報告が4件(ワクチン接種歴なし3件、不明1件)、60歳代以上の報告が11件(ワクチン接種歴あり1件、なし3件、不明7件)でした。
- 水痘(入院例に限る): 10歳代と30歳代の臨床診断例の報告が1件ずつで、いずれもワクチン接種歴なしでした。
- 梅毒: 13件の報告(先天梅毒1件、無症状病原体保有者6件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期2件)がありました。国内での感染が9件、感染地域等不明が4件で、男性8件、女性5件でした。感染経路は、母子感染1件、異性間性的接触が5件、同性間性的接触が1件、性別不詳の性的接触が4件、感染経路等不明が2件です。
- 百日咳: 国内での感染が推定される30歳代の報告が1件ありました。ワクチン接種歴は不明です。
- 麻しん: バングラデシュでの感染と推定される50歳代の修飾麻しんの報告が1件ありました。ワクチン接種歴ありです。

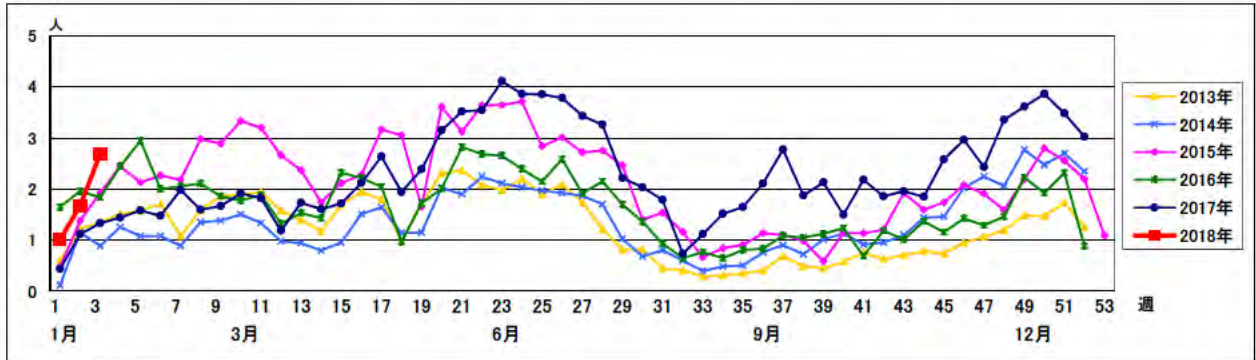
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第51週	12月18日～12月24日
第52週	12月25日～12月31日
第1週	1月1日～1月7日
第2週	1月8日～1月14日
第3週	1月15日～1月21日

1 インフルエンザ: 2017年第51週で14.19にて流行注意報発令、2018年第3週で56.09となり、警報発令基準値(30.00)を超えました。第3週の迅速キットによる報告では、A型33.1%、B型66.6%で、分離・培養ではAH1pdm、B山形系統が多く検出されています。



2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎: 2017年第45週頃より増加傾向となり、第3週で定点あたり2.69となっています。



3 性感染症(12月)

性器クラミジア感染症	男性:30件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:7件	女性:7件
尖圭コンジローマ	男性:7件	女性:2件	淋菌感染症	男性:12件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第51週	第52週	第1週	第2週	第3週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.25	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	1.00	0.75	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.50	0.00	0.25

5 基幹定点月報(12月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	5件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件		—

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

1月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点49件、内科定点27件、眼科定点1件、基幹定点12件で、定点外医療機関からは5件でした。

2月7日現在、表に示した各種ウイルスの分離株63例と遺伝子10例が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(1月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*1	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	その他
インフルエンザ AH1N1pdm09型		1	1	15			
インフルエンザ AH3N2型				11			
インフルエンザ B型山形系統			1	32 1			
アデノ 3型					1		
アデノ 型未同定			1				
パラインフルエンザ 2型		1					
ヒトコロナ*2			1				
ヒトメタニューモ			2				
コクサッキー B2型						1	
パレコ 3型							1
ノロ					2		
ロタ					1		
合計		2	2 4	58 1	4	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

*1:疑いを含む、*2:HCov-229E or NL63、HCov-OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

☆1月から細菌担当の検査情報が新しくなりました！

「菌株同定」、「分離同定」、「小児科サーベイランス」の3つのカテゴリーに分け、それぞれ依頼元に分けました。また、累積報告数は算定しないことになりました。

1月の「菌株同定」は基幹定点依頼の腸管出血性大腸菌が3件、サルモネラ属菌が3件、劇症型溶血性レンサ球菌が1件、溶血性レンサ球菌が1件になっており、非定点依頼ではカルバペネム耐性腸内細菌科細菌が2件、非定型抗酸菌が1件、膿瘍由来の肺炎球菌が1件となり、保健所からの依頼は劇症型溶血性レンサ球菌が6件、腸管出血性大腸菌が3件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌が7件、侵襲性肺炎球菌が1件でした。「分離同定」の検査はありませんでした。「小児科サーベイランス」ではA群溶血性レンサ球菌が4件の検出でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(1月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関	腸管出血性大腸菌	3	O157:H7 VT1VT2
	サルモネラ属菌	3	<i>Salmonella</i> O4群 1件、 <i>Salmonella</i> O7群 2件
	基幹定点 劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌Ⅱ型
	溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌Ⅰa型
非定点	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	2	<i>Enterobacter aerogenes</i> 1件、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> 1件
	非定型抗酸菌	1	<i>Mycobacterium lentiflavum</i>
	肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 19A型
保健所	劇症型溶血性レンサ球菌	6	A群溶血性レンサ球菌T1型 3件、T3型 1件、TB3264型 1件、G群溶血性レンサ球菌 1件
	腸管出血性大腸菌	3	O111:H19 VT1 1件、O26:H11 VT1 1件、OUT VT1 1件
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter aerogenes</i> 5件、 <i>Enterobacter cloacae</i> 1件、 <i>Klebsiella oxytoca</i> 1件
	侵襲性肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 15A型
小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	T1型 1件、T25型 1件、TB3264型 2件

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成30年1月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数

平成30年1月の総アクセス数は、254,705件でした。前月に比べ約36%増加しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}82.2%、保健情報6.0%、検査情報月報2.2%、生活環境衛生1.2%、食品衛生1.1%、薬事0.8%でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

1月のアクセス順位(表1)を見ると、インフルエンザが、流行期に入ったため、多くのアクセス件数を占めています。

1位は「インフルエンザ流行情報(2017/2018)」、2位は「横浜市インフルエンザ流行情報9号(2017/2018)」、3位は「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。5位に、「大麻(マリファナ)について」が継続して入っており、関心の高さがうかがえます。

表1 平成30年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザ流行情報(2017/2018)	15,229
2	横浜市インフルエンザ流行情報9号(2017/2018)	11,375
3	横浜市感染症情報センタートップページ	10,248
4	インフルエンザについて	10,206
5	大麻(マリファナ)について	8,609
6	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	8,455
7	横浜市インフルエンザ流行情報8号(2017/2018)	7,845
8	横浜市インフルエンザ流行情報7号(2017/2018)	7,703
9	横浜市インフルエンザ流行情報6号(2017/2018)	6,977
10	衛生研究所トップページ	6,296

データ提供: 市民局広報課

「インフルエンザ流行情報(2017/2018)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2017.html>

「横浜市インフルエンザ流行情報9号(2017/2018)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/2017/rinji09.pdf>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

(3) 電子メールによる問い合わせ

平成30年1月の問い合わせは、4件でした(表2)。

表2 平成30年1月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
感染症のデータ提供依頼について	1	感染症・疫学情報課
講演依頼について	1	理化学検査研究課
レジオネラ属菌の検査方法について	1	微生物検査研究課
インフルエンザについて	1	横浜市衛生研究所

2 追加・更新記事

平成30年1月に追加・更新した主な記事は、7件でした(表3)。

表3 平成30年1月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
1月 1日	◆お知らせ◆ 感染症法が一部改正され、届出基準・届出様式が変更	更新
1月12日	横浜市インフルエンザ流行情報7号	掲載
1月18日	横浜市インフルエンザ流行情報8号	掲載
1月19日	横浜市感染症発生動向調査事業概要 平成28年(2016年)	掲載
1月25日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
1月29日	病原体定点からのウイルス検出状況(平成30年)	掲載
1月30日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載

【 感染症・疫学情報課 】